

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
社会的事象について理解する。(知識・理解) 諸資料を効果的に読み取る技能を身につける。(技能)	社会的事象について思考・判断したことを、説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。(思考・判断・表現)

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	第2回定期検査における知識・技能の正答率が65%、思考・判断・表現の正答率が56%であった。特に、複数の資料を用いて、社会的事象について説明する問題の正答率が54%と特に低くなっている。ア・イ レポート課題において、課題に対する自らの考えについて、学習した内容を生かし根拠をもって説明することが不十分な生徒が見られる。イ	単元のまとめの時間に、小テストを配布し、取り組ませる。 授業において、複数の資料から読み取ったことを説明させる機会を設ける。 授業において、資料から読み取ったことから社会的事象について考察させ、説明させる機会を設ける。 定期検査前学習教室を実施する。 単元を見通した学習課題を設定し、OPP シート(※1)を活用することを通じて、見通しをもって学習に取り組ませる。 学習した内容を生かして、ディスカッション、ディベート、レポート作成等、問題解決的な学習に取り組ませる。	各単元のまとめの時間 毎回の授業 毎回の授業 定期検査前 毎回の授業 単元ごと	第3回定期検査において、思考・判断・表現の正答率が61%と第2回を上回り、資料の読み取り、考察、説明をさせたことによる効果が見られた。しかし、知識・技能の正答率が55%と、第2回を下回ったことが今後の課題である。 問題解決的な学習を通して、ほぼ全ての生徒が、自ら調査したことを用いて、他者に発表することができた。 レポート課題において、学習した内容を生かし、根拠をもって説明することができる生徒が増加した。
第2学年	第2回定期検査における知識・技能の正答率が68%、思考・判断・表現の正答率が71%であった。定期検査全体として5割以上の内容が習得している生徒が75%いる一方で、基本的な学習内容の習得が不十分な生徒が見られる。ア レポート課題において、具体的な資料を根拠として、意見を述べることに課題のある生徒が見られる。イ	毎時間の授業で小テスト、単元ごとに単元テストを実施し、学習内容の習得を促す。 習得と探究のサイクルを意識した単元を構成し、学習した内容を生かして、ディスカッション、ディベート、レポート作成等、問題解決的な学習に取り組ませる。	毎回の授業 単元ごと	毎時間的小テストを積み重ねることによって第3回定期検査における知識・技能の正答率が71%と向上した。 問題解決的な探究学習を単元ごとに設定することで、レポート課題において、具体的な資料を根拠に意見を述べる生徒が増加した。
第3学年	第2回定期検査における知識・技能の正答率が62%、思考・判断・表現の正答率が61%であった。特に、複数の資料を読み取り、社会的事象について考える問題については、正答率が低くなっている。ア・イ 歴史上の出来事を適切に並び替える問題に対する正答率が低い。基礎的・基本的な知識に関連して、その知識を活用して推測することに課題がある。イ レポート課題において、複数の資料を活用し、多面的に意見を述べることに課題のある生徒が見られる。イ	定期的な小テスト(一問一答形式を含める)の実施。 計画的に復習に取り組ませるとともに、歴史の時代を大観させる学習を探究学習の場面で設定する。 単元を見通した学習課題を設定し、OPP シートを活用することを通じて、見通しをもって学習に取り組ませる。 習得と探究のサイクルを意識した単元を構成し、学習した内容を生かして、ディスカッション、ディベート、レポート作成等、問題解決的な学習に取り組ませる。	毎回の授業 単元のまとまりや各授業	第3回定期検査における知識・技能の正答率が63%、思考・判断・表現の正答率が68%であり、思考・判断・表現の正答率において向上が見られた。 定期的な復習と、時代を大観させる探究学習を実施したことで、歴史の時代の並び替える問題についての正答率が向上した。 問題解決的な探究学習を単元ごとに設定することでレポート課題において、学習した内容を生かし、根拠をもって説明することができる生徒が増加した。

※1：学習者が1枚の用紙に1時間の学習履歴を記録し、その全体を学習者自身が自己評価をするシート

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年 課題追究を個別で行い、追究した事項を共有して、深い学びにつなげる際に、ICT を活用する。	全学年 単元ごとに単元を貫く問いの予想と振り返りを行い、自身の考えの変化を実感させる。他の生徒の意見などを視覚的に提示する。